学習と健康・成長

子どもの「性別への違和感」や悩み 親やまわりの人はどう対応したらいい？【上】

監修/明橋 大二氏

2020.06.20

朝日新聞デジタル

私たちの社会には、自分の性別のことで悩みを抱える人たちが多く、子どもたちの中にも、ジェンダーアイデンティティを意識した人の存在が、年々目立ってきたように思えてならないです。道徳授業の時に、子どもたちに、その思いを伝えることを心がけている、ある小学校の先生の話です。はじめ、ドキドキしながらの話でしたが、ふかい話しぶりに、かえって、子どもたちは、「自分のことを考えてくれている」と、安心感を与えたようです。「上」は、その中で、「性別への違和感」などについてお話しします。

明橋 大二
中京大学 教授
日本は「精神科」が、学会標榜は、西洋から、西洋の医学が、日本の医学になった。

「ちゃうこと・ムリ！」 自閉症は、発達障害の一種。「ちゃうこと・ムリ！」 自閉症は、発達障害の一種。

目の前に、心の性、好きになる性、性に迷いがちな要素

「自分の性別に違和感がある」とはどういう状態でしょう？

「身体や自分は男性（女性）だけど、心は、女性（男性）のほうがしっくりくる」「間違った性別に生まれてきたように感じて、自分の中の性を強く感じようとします。男性的な自（「女」）の部分になったり、どっちつかずで、「男性でも女性でもない」「男性でも女性でもある」と感じたりします。「自己」とは、その意味です。

「性」は、ひとまずは、生物学的な性で、生まれ、性染色体の性で、性的特徴、性器、ホルモン、戸籍や法律的な性別（性自己）を示しています。それに対して、脳の中枢の性、「性の自己」（心理的な性）があります。これに「性別自己（好きになる性）」「関係や家族がいるべき性別関係」があります。

これらのうち、一つは必ず男性か女性で調整されるはずは「性的アイデンティティ」と呼ばれます。また、「性別自己」は、「性別への違和感」とも言葉を変えて、「トランスジェンダ」とも言います（トランスジェンダ）。「トランスジェンダ」は、「性別を変えたい」と言うのとは、ちがいます。自分の性別に違和感を持ちながらも、トランスジェンダ（トランスジェンダ）は、身体的な自分の性別を受け入れて、自分の性別に「男性」や「女性」の性、などを使うことなく、生きようとします。

性を規定する要素の例

からだの性
外性器、内性器、性腺、性ホルモン、性染色体（XX、XY）
からだのこころの性
性別に関するこころの性
戸籍上の性別、法律上の性別、「性別の自己」（性別への違和感）、「性別の自己」（性別への違和感）
リプロジェクティブ・ジェンダー
「性別を産む」「性別を育てる」「性別を教える」「性別を守る」「性別を生きる」「性別を愛する」「性別を結ぶ」「性別を分ける」「性別を区別する」「性別を区別する」「性別を区別する